

議長定例記者会見 会見録

日時：令和7年5月1日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭発言

2 質疑項目

○議長・副議長の任期について

○執行部との関係性について

○1年間の成果について

○次の議長、副議長に対して

1 冒頭発言

(議長) 皆さんおはようございます。ただ今から、5月の議長定例会見を開催いたします。本日発表事項はございませんが、私の議長任期最後の定例記者会見になりますので、この1年間を振り返って、少し感想を述べさせていただきたいと思っております。まず昨年の所信表明会において、私の思いを3点述べさせていただきました。1点目は議会改革のさらなる推進と交流・連携の強化であります。三重県議会では、分権時代を先導する議会を目指して、議会改革に積極的に取り組むとともに、改革の輪を広げる取り組みを行ってきたところです。その一環として、昨年度、全国の自治体議会議員の交流・連携を図ることを目的に、9回目となる全国自治体議会改革推進シンポジウムを8年ぶりに開催いたしました。女性や会社員など、さまざまな立場から、多様な人材の活躍に向けた取り組み事例や今後の展開などについて意見交換をし、参加者との交流連携を深めることができました。参加者からも高い評価をいただき、時宜を得た企画で実施できたとともに、三重県議会としても、改めて、多様な人材の議会への参画に向けた取り組みを進めていく契機になったと考えております。2点目は若者の政治参画、主権者教育の推進です。昨年度は2年ぶりに「みえ高校生県議会」を開催いたしました。高校生の想いを一層しっかり受け止め、高校生からの意見・提案を具体的な形にするため、新たな議論の仕組みを設け、実施できました。また議員から参加生徒へ、議会での議論のフィードバックも行いましたので、参加生徒には、自身の意見が県政に届いたという実感を持っていただけたのではないかと考えております。3点目は海外との交流の推進です。三重県議会ではこれまでもさまざまな議員連盟があり、活動しております。所信でも申し上げましたが、日本には、今後急速に人口減少が進む中、日本の経済・社会を維持していくためには、国際的な取り組みは非常に重要と考えております。そのような状況の下、各議連においても、1年間、活発に活動をいただいたと思いますが、今後さらなる発展が期待されるインドネシア共和国と、三重県の交流・連携を深めていくため、日

本・インドネシア共和国友好三重県議会議員連盟を3月に設立したことは、印象深いことの一つです。来週、人材確保やインバウンド誘客を目的に、知事がインドネシアを訪問されますが、こういった県の取り組みをバックアップするため、先般資料提供いたしましたとおり、私もインドネシアを訪問する予定です。議会としても交流・連携を深めることにより、議会が果たすべき役割の一助になればと考えております。また中森前議長、杉本前副議長が取りまとめにご尽力されました、全国議長会の「多様な人材が輝く議会のための17の提言」を踏まえ、そのうちの一つである「立候補や議員活動がしやすい環境づくり」の取り組みとして、県内四つの経済団体に対して、立候補に伴う休暇制度の新設や、議員との副業・兼業の容認を要請いたしました。これにつきましては、今後継続して取り組んでいきたいと考えております。以上がこの1年間の感想でございますが、私がこういった活動に力を注ぐことができたのも、小林副議長が本県議会の運営をしっかりとお支えいただいたおかげであり、議員各位、関係者の皆さんのおかげであると感謝しておるところでございます。令和6年度の取り組みを生かして、今後一層活動を充実していただけるよう、次期議長に引き継ぎたいと考えておりますし、私自身も一議員として、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。私からは以上でございますが、この1年間私を支えていただき、広聴広報会議の座長としてもご尽力されました、小林副議長からも一言感想をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

(副議長) それでは、私からも、副議長に就任してからの1年間を振り返って、少し感想を述べさせていただきたいと思っております。まず、去年の所信表明会でも申し上げましたが、二元代表制の下、その一翼を担う議会として党派を超えて一枚岩となり、真の力を発揮しなければならないと考えております。そのような実効性のある議会の先導役となる稲垣議長を支える補佐役として、この1年間、全力で職務に取り組ませていただきました。議長におかれましては、私の意見も尊重して議会を運営していただきました。大変感謝申し上げたいと存じます。私は広聴広報会議の座長も務めさせていただきましたので、その立場で振り返ってみますと、県民の皆さんに県議会の取り組みをいかに分かりやすくお伝えできるか、身近に感じてもらえるかを常に考え、新たな取り組みを進めてまいりました。例えば、「みえ県議会だより」では、若年層を意識しつつ、より多くの県民に関心を持っていただけるよう、昨年度からの議論を踏まえまして、読みやすさを重視し、横書きメインにしたり、写真の配置を工夫する等、デザインやレイアウトを変更してまいりました。また、議長からもお話がありましたが「みえ高校生県議会」では、高校生の質問や提案について全ての行政部門別常任委員会で議論を行い、県政に反映させていく取り組みを進めるとともに、新たな取り組みとして、議会での議論の状況を広聴広報会議の委員から参加生徒に直接フィードバックしたほか、高校生県議会を特集した「みえ県議会新聞」を県内全ての高校生にお

届けをさせていただきました。多くの高校生に、県議会の活動に関心を持ってもらえたのではないかなと考えております。次の広聴広報会議委員の皆さんにも、令和6年度の成果を引き継ぎ、広報と広聴の両面で開かれた議会となるよう、取り組みを進めていっていただくことを期待しているところでございます。最後に、この1年間、三重県議会の副議長を務めさせていただいたことについて、議員各位、関係者の皆さまには深く感謝を申し上げますとともに、報道関係の皆さまには、議会の広報にいつもご協力をいただき、大変感謝を致しております。引き続き皆さま方のご協力をよろしくお願いいたします。以上でございます。ありがとうございました。

(議長) はい。以上です。

2 質疑項目

○議長・副議長の任期について

(記者) ありがとうございました。幹事社です。一応確認なんですけれども、正副議長それぞれ次の、議長、副議長選挙に引き続きっていう、そもそももう1年続けるっていうお気持ちはあたりするんですか。

(議長) いえ、就任のときに申し上げたとおり、1年間しっかり取り組みたいということで務めてまいりましたので、任期がまだ残っていますので、そこを全力でやっていきたいと思っています。

(記者) 副議長も同様。

(議長) はい。私も同様です。

(記者) はい。わかりました。

○執行部との関係性について

(記者) 改めて執行部との関係性なんですけれども、基本的には全て、執行部が提出した議案を可決という形になりますけれども、その緊張感とかですね、その執行部との協調性に関してはどういうふうに評価されてるのでしょうか。

(議長) 三重県議会は、議会基本条例に書いてありますように二元代表制ということで、執行部と、それからわれわれ議会が両輪として、県民のために取り組んでいくということですので、当然緊張感を持ちながら、言うべきことは言い、提案もし、やっていくというやり方をこれまでやっておりまして、この1年振り返っても、そういうことができたのかなと思っています。ただそんな中で、議案の

訂正とか、そういったのがあったのも事実ですので、その都度、そのときには申し上げますけれども、やっぱりそういったことについても、しっかり丁寧にやっていっていただく必要も執行部にはあるのかなと思っていますし、われわれもしっかりチェックしていく必要もあるのかなと思っています。

(記者) わかりました。ありがとうございます。

○1年間の成果について

(記者) 1年間お疲れ様でした。

(議長) ありがとうございます。

(記者) お二人それぞれですね、この1年間、特に三つとか挙げてはいただきましたけど、特に力を入れたことですか、その成果みたいなことについてどういうふうにお考えになっているか、改めて伺ってよろしいでしょうか。

(議長) 冒頭申し上げましたように、就任のときに3点申し上げましたので、議会改革のさらなる推進と、それから若者の政治参画、主権者教育のさらなる推進と、それから海外との連携の強化ということを上げて、それを柱にいろんな取り組みができたかなと思っています。ですので、1年間通して、最初に申し上げたことを全てが完全にできたわけではありませんけれども、ある程度最初申し上げたことに沿って取り組みができたかなと思っております、その分については感謝をしておりますし、まだまだ当然道半ばのところ、継続してやっていかなければいけないところがありますので、しっかり取り組みさせていただきたいなど、これからは個人として、一議員として取り組みたいと思っています。

(副議長) はい。私もいろいろ思うところありますけども、この1年間を振り返って、一番何がと言うと、広聴広報の座長もさせていただいた関係もありまして、高校生県議会、特に今年は11校が参加をしていただいて、非常に活発な意見や議論をさせていただいたところがございます。そういったところを、これも冒頭議長からお話がありましたけども、そういった質問、それから意見・提案、そういったものを受けて、しっかりとそれを各常任委員会で議論をさせていただいて、そしてそれを執行部に伝える。その中でいいものがあれば政策にも反映していくと、そういったことができたこと。それからそういったことを着実にその高校生の方々にフィードバックができたこと。これは本当に重要なことだったと思っておりますし、今後こういうこともしっかりと重ねていって、より高校生を始め、若い方々に三重県議会を始め、政治というものに興味を持っていただければなと思っておりますので、次の副議長、広聴広報会議座長にも期待をすると

ころでございます。

○次の議長、副議長に対して

（記者）1年間活動されてきて、課題として残っていることですか、またこんなところを次の方にやっていただきたいみたいなどころっていうもの、もしあれば教えていただけますでしょうか。

（議長）今回、議会改革の推進で、シンポジウムを先月させていただいたと申し上げたんですけれども、非常にいい機会になったなということを思っています、対外的な発信ということをおっしゃるんですが、私も感じましたのが、三重県議会、議会改革の先進県としてずっと取り組んできたという、われわれも自負を持っていますし、そういう取り組みをしてきてたんですけれども、実際に今回のシンポジウム、8年ぶりだったわけですし、8年ぶりの開催ということは、この三重県議会でも1期生2期生の方は初めて経験したということになります。そういうことを考えると、われわれがずっと思っていたことと、1期生2期生の、新しく三重県議会に入ってきていただいた方との間に、例えば議会改革についても、もしかしたら温度差もあるのかもしれないですし、そういった経験の違いもありますので、そういったことというのを共有していくような機会を、三重県議会一丸となって、そういった議会の、一丸となってやる力というのが議会改革の推進につながると思いますので、そういったことというのは大事ななところを今回やってみて改めて感じました。ですので、これは課題というわけではないんですけれども、常にわれわれが意識してやっていかなければいけないことかなと感じています。

（記者）副議長、何かありますか。

（副議長）議長の言われるとおりですけれども、私は稲垣議長の考え方に賛同させていただいて、できる限り補佐をさせていただいたつもりでございます。また次の議長、どなたがなられるか分かりませんが、その方の方針をしっかりと進めていっていただく、副議長が補佐をしていただく、そのように期待をしておるところでございます。

（記者）今、議会改革シンポジウムのお話出ましたけれども、8年ぶりの開催ということで、そういった機会ってというのは毎年のようにあったほうがいいというふうにお考えですか。今後について。

（議長）毎年シンポジウムを開催するかどうかは、その都度決めていただければいいと思うんですけど、常にそういう議論は要るのかなと思っています、長期

的に取り組むべき課題、特に今回取り組ませていただいた若者や女性の政治参画とか、立候補しやすい環境をどう作っていくかとか、そういったことというのは、すぐに答えが出て解決する課題ではありませんので、やはりそういったことについて常に三重県議会として取り組んでいくと。その形がシンポジウムであればシンポジウムを継続して開いていくというようなことをやっていく必要があるのかなと思っていますので、常に意識をしていく必要があるかな、議論していく必要があるかなと思っています。

(記者) ありがとうございました。

(議長) ありがとうございました。1年間どうもお世話になりました。これからもよろしく願いいたします。

(以 上) 10時44分 終了